

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立明保小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	96人	算数	96人	理科	96人
第5学年	国語	92人	算数	92人	理科	92人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

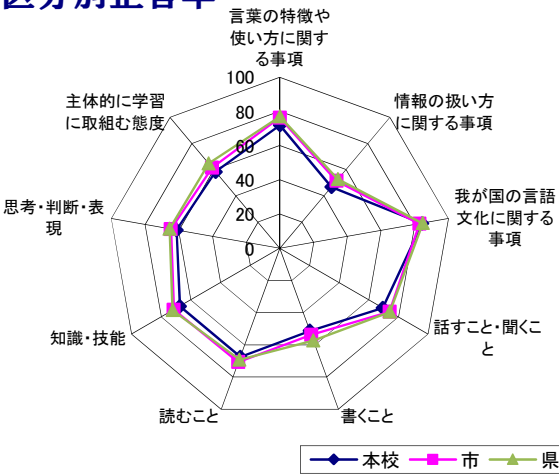
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立明保小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.0	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	46.9	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	84.4	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	69.4	74.1	74.2
	書くこと	51.2	53.7	57.2
観点	読むこと	67.4	70.7	69.2
	知識・技能	67.5	71.6	72.3
	思考・判断・表現	61.3	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	58.5	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

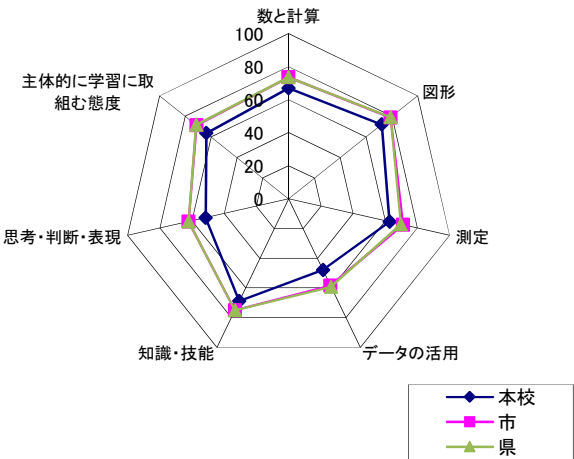
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●領域全体の平均正答率は72.0%で県の平均正答率を5ポイント下回った。 ○「第3学年に配当されている漢字を正しく書く」という設問では、県の平均正答率を7ポイント上回っている。 ●「第3学年に配当されている漢字を正しく読む」設問では、県の平均正答率を大きく下回っている。 ●「ローマ字で表記されたものを正しく読んでいる」という設問では県の平均正答率を7.4ポイント下回っている。	・新出漢字の学習の後には、繰り返し復習する機会を意図的に設けたり、自主学習での復習を推奨したりして、漢字の読み書きの定着を図ることができるようにする。 ・ローマ字を扱ったワークシートの活用や、一人一台タブレットを利用したローマ字入力之机を設け、ローマ字を読んだり書いたりすることに慣れることができるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	●領域全体の平均正答率は46.9%で県の平均正答率を5.8ポイント下回った。 ●「国語辞典の使い方を理解している」についての設問では、県の平均正答率を5.9ポイント下回っている。 ●「情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いている」という設問では、県の平均正答率を8.9ポイント下回っている。	・国語の授業を中心に、国語辞典を用いて調べる活動をより多く取り入れ、国語辞典に慣れることができるようにするとともに、分からない言葉を自ら学ぶ態度を育てるようにする。 ・「情報と情報との関係を明確にして書く」ことができるように、説明文の要点を読み取り、自分の力でまとめることができるように指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	○領域全体の平均正答率は84.4%で県の平均正答率と同程度であった。 ○「漢字のへんやつくりを理解している」という設問では、県の平均正答率と同程度であった。	・新出漢字を学習する際には、漢字のへんやつくり、また成り立ちにも着目し、漢字に関心をもって学習に取り組むことができるようにする。
話すこと・聞くこと	●領域全体の平均正答率は69.4%で県の平均正答率を4.8ポイント下回った。 ○「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える」設問では、県の平均正答率を1.3ポイント上回っている。 ●「相手の話したいことの中心を捉える」設問では、県の平均正答率を7.9ポイント下回っている。	・国語の「話すこと・聞くこと」の単元では、児童一人一人に相手の話したいことは何かを考えて聞くことを意識させるとともに、必要に応じて、整理してメモを書くことができるように指導していく。 ・「話すこと・聞くこと」は様々な学習の基本であるため、他の教科においても、相手の話の要点をしっかりとおさえることができるように指導していく。
書くこと	●領域全体の平均正答率は51.2%で県の平均正答率を6ポイント下回った。 ●「指定された長さで文章を書く」設問では、県の平均正答率を6.1ポイント下回っている。	・作文指導の際に、構成メモを活用して、書きたいことを整理してから作文を書くように指導していく。 ・日記やミニ作文などの活動を通して、書くことの楽しさに触れ、意欲的に取り組むことができるようにする。
読むこと	○領域全体の平均正答率は67.2%で県の平均正答率と同程度であった。 ○「文章を読んで感じたことや考えたことを共有する」設問では、県の平均正答率を2.9ポイント上回った。 ○「叙述を基に文章の内容を捉えている」の設問では、県の正答率を4.9ポイント上回った。 ●「場面の様子について、叙述を基に捉えている」の設問では、県の平均正答率を11.9ポイント下回った。	・「読むこと」の単元の教材文の読み取りの際には、場面の様子をしっかりと確認し、その上で登場人物の気持ちや気持ちの変化を想像するように指導していく。 ・「本は友達」の単元の学習と関連させた本の紹介や、図書室を利用する時間を設けるなどして、さらに読書に親しむことができるようにする。

宇都宮市立明保小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.0	73.5	73.6
	図形	72.2	79.0	79.1
	測定	62.7	71.1	69.8
	データの活用	47.9	58.4	59.2
観点	知識・技能	68.8	75.0	75.0
	思考・判断・表現	51.5	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	63.8	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

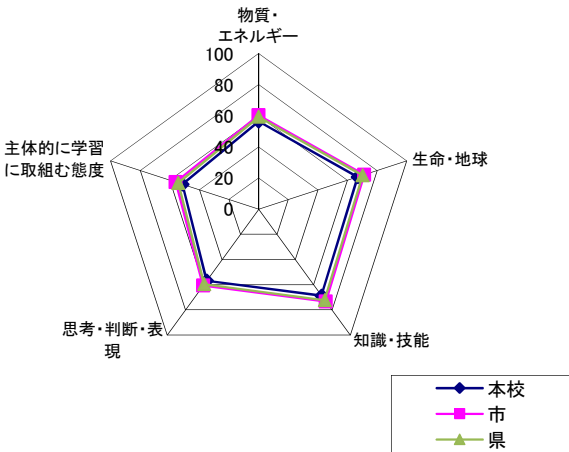
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●領域全体では、平均正答率は67.0%で、県の平均正答率を6.6ポイント下回っている。 ○「同分母の真分数+真分数=真分数の計算ができる」設問では平均正答率が93.9%で、県の平均正答率をわずかに上回った。 ●「文章問題を解くための除法の式を選ぶ」設問では、平均正答率が62.5%であり、県の平均正答率を大きく下回った。また、「35×14の工夫した計算の仕方を説明する」設問では、平均正答率が27.1%であり、県の平均正答率を12.2ポイント下回った。	・朝の学習や家庭学習で、基礎的な計算問題の演習に繰り返し取り組ませ、計算力の向上を目指す。 ・文章問題を解く場合には、大切な数量に線を引ながら読み、使用する四則はどれがふさわしいかを予想したり、図や数直線を活用して式を立てたりすることを今後も継続して指導していく。
図形	●領域全体では、平均正答率は72.2%で、県の平均正答率を6.9ポイント下回っている。 ●「円の半径について理解している」設問では、平均正答率が70.8%で県の平均正答率を5.4ポイント下回った。 また、「球の半径から、球が一つ入った箱の辺の長さを求める」設問では、平均正答率が62.5%で県の平均正答率を10.7ポイント下回った。	・デジタル教材や模型を活用しながら、円や三角形、四角形、球等、様々な図形を視覚的に捉え、定義を理解できるようにする。 ・平面図形を作図したり、立体模型を作成したりする中で、直径、半径、中心などの言葉を振り返り、定着を図っていく。
測定	●領域全体では、平均正答率は62.7%で、県の平均正答率を7.1ポイント下回っている。 ●「1分=60秒の関係を理解している」設問では、平均正答率が65.6%で、県の平均正答率を10.6ポイント下回った。 ●「単位の前にKがつくと、もとの単位の1000倍になることを説明している」設問では、平均正答率が40.6%で、県の平均正答率を大きく下回った。	・日常生活の中で、活動時間や集合時刻などの時間を意識させることで、今後も時間の長さに対する感覚を養っていく。 ・身の回りで用いられている様々な単位に興味を持たせ、単位のしくみについての理解を深めていく。
データの活用	●領域全体では、平均正答率は47.9%で、県の平均正答率を11.3ポイント下回っている。 ●「棒グラフの1目盛りの大きさに着目して間違いを指摘している」設問では、平均正答率が49.0%で県の平均正答率を大きく下回った。 ●「複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取る」設問では、平均正答率が45.8%で、県の平均正答率を10.7ポイント下回った。	・棒グラフの目盛りのつけ方や読み方について復習したり、繰り返し取り組ませたりすることで、その特長や使い方の理解につなげていく。 ・複数の棒グラフを組み合わせたグラフについては、身の回りの事象について表すことで、興味関心を高め、理解につなげていけるようにする。

宇都宮市立明保小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.3	60.2	59.2
	生命・地球	66.9	71.3	70.3
観点	知識・技能	68.7	73.4	72.3
	思考・判断・表現	56.8	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	51.5	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	●領域全体の平均正答率は56.3%で、県の平均を2.9ポイント下回った。 ●「じしゃくの性質」の「磁石の極を確かめる方法を構想することができる。」という設問では、県平均を11.1ポイント、「磁石が物を引きつける力は、磁石と物の距離によって変わることを推測することができる。」という設問では、県平均を9.5ポイント下回った。 ●「物の重さ」の「実験の結果から、物の形を変えても重さは変わらないことを考察することができる。」の設問では、県平均を11.3ポイント下回った。	・デジタル教科書等を効果的に用いることで、視覚的に理解を促す。 ・単元に合った教材を十分にそろえ、授業内で予想→実験→結果のように、児童が活動し、考える時間を徹底して確保する。 ・今後も実験や観察などの具体的な体験を通して、学習内容を理解させ、その仕組みを正しく理解できるように指導していく。 ・推測する設問に対しては、既習の内容や生活体験を基に、根拠のある予想や仮説を立て、図などで表現するなどして話し合うことができるような授業展開を工夫していく。
生命・地球	●領域全体の平均正答率は66.9%県の平均を3.4ポイント下回った。 ●「こん虫の育ち方」の「モンシロチョウがキャベツの葉にたまごをうむ理由を説明することができる。」という設問では、県平均を11.3ポイント、「完全変態と不完全変態の昆虫を理解している。」という設問では、県平均を13.5ポイント下回った。 ●「太陽と地面のようす」の「日なたと日かげの地面の明るさと湿り具合の違いを理解している。」の設問では、県平均を11.3ポイント下回った。	・基礎基本を定着させるために、個別の習熟度に合ったプリントを用意する。 ・主体的な問題解決を通して獲得した知識を、日常生活と関連付けて考えるような授業展開を工夫していく。 ・実際に観察する活動では、対象物の様子をじっくり観察するだけでなく、実物投影機やデジタル教材などを用いて視覚的に理解していく。 ・観察や実験の結果を覚えるだけでなく、観察物の様子と合わせて季節などの周囲の変化に着目し、それらを関連付けることができるよう指導していく。

宇都宮市立明保小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭の学習については、「家で学校の宿題をしている。」と回答した児童の割合は89. 6%で約9割を超えており、継続した家庭学習習慣化と意欲の高さがうかがえる。

○読書については、「1か月に、何冊くらい本を読みますか。」の質問に対し、11冊以上と回答した児童の割合が30. 2%、市町村の割合を2. 2%、県の割合を2. 4%上回っており、読書に親しみ本に触れあう様子がわかる。

○学ぶ意欲については、「できるだけ自分一人の力で問題を解決しようとしている。」の質問に対し、肯定的回答の平均が42. 2%で、市町村の割合を0. 4%、県の割合を0. 6%上回っており、学習に対する意欲が見られる。「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の質問に対し、「はい」の回答が78. 1%、市町村の割合を1. 5%、県の割合を9. 3%上回っており、学習の面白さや大切さを実感し、自主的に調べたり解決したりして取り組む姿勢が見られる。その学習が将来につながるという意識も高いことがうかがえる。

○学校での様子については、「毎日の生活が充実していると感じている。」の質問に対し、53. 1%の半数児童が「はい」と回答している。市町村の割合を4. 3%、県の割合を5%上回っている。「将来の夢や目標をもっている。」という質問に対し、「はい」の回答が76. 0%、市町村の割合を2. 1%、県の割合を4%上回っており、学習面の肯定的回答と併せて、将来に向けて積極的に自己実現を図ろうとする意欲がうかがえる。

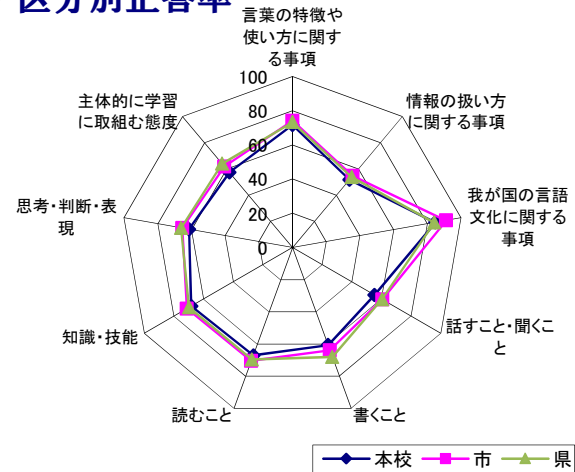
●家庭の学習については、上記で述べたように「学校の宿題はやっている」と回答しながらも、「家でテストで間違えた問題について勉強している。」と肯定的回答の平均は、31. 2%と市町村や県の平均を下回っている。「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている。」と回答した児童も32. 3%と市町村や県の平均を下回っている。以上のことから、学校から出された宿題以外に自ら考えて取り組んだり、復習に努めたりする姿勢については引き続き指導が必要であると考ええる。

●社会的事象については、「新聞を読んでいる。」の質問に対し、「ほとんどまたは全く読まない」が80. 2%と、8割の児童が読んでいないことが分かる。情報化社会が進行し、家庭でもテレビやオンラインニュースを活用している実態もあることから、新聞に携わる機会が減っているのも事実だが、授業の中で新聞に触れる機会を作り、児童が新聞に興味をもつような支援を行っていきたい。

宇都宮市立明保小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	71.7	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	51.8	54.7	53.8
	我が国の言語文化にに関する事項	84.8	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	55.4	60.6	60.4
	書くこと	60.6	63.8	68.0
	読むこと	67.0	70.4	69.6
観点	知識・技能	68.4	71.3	69.9
	思考・判断・表現	61.4	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	57.4	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

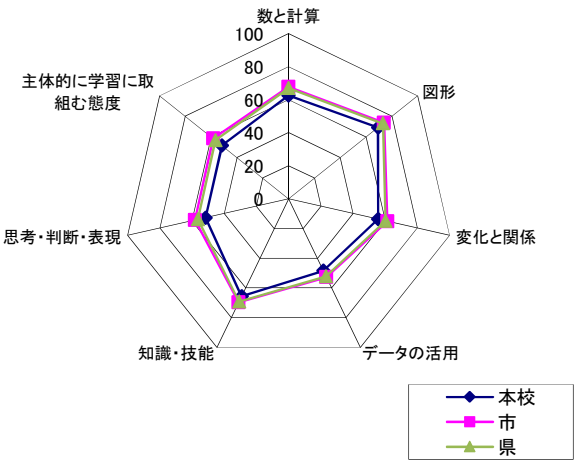
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●平均正答率が、市の平均よりも2.5ポイント下回る。 ○第4学年に配当されている漢字を正しく読み、書くことがおおむねできている。第5学年の新出漢字の練習と併せて、既習の漢字の定着を図るために学習させる機会を推進した成果であると考えられる。	・今後も、第5学年の漢字と併せて既習の漢字を練習したり、日常のノートや連絡帳などの場で正しく使いこなすようにしたりしながら実践力を養っていく。
情報の扱い方にに関する事項	●平均正答率が、市の平均よりも2.9ポイント下回る。 ○「漢字辞典の使い方」は、7割以上の児童が理解している。 ●大問5 説明文の読み取り(2)の問題で、情報と情報の関係について理解し、段落相互の関係を捉えている児童が4割に満たない。市の平均よりも3.6ポイント下回っている。	・説明文の読み取りでは、段落相互の関係に注意して内容を読み取る学習を展開し、重点的に指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	○「ことわざの意味を知り、正しく書いている」設問では、県の平均を0.6ポイント上回り、理解していることが分かる。	・言葉の学習では、興味関心がもてるようにワークシートなどを工夫して指導していく。
話すこと・聞くこと	●領域全体の平均正答率は55.4%で、市の平均より5ポイント下回る。特に「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている」という設問の正答率は45.7%と低かった。	・日常生活において、話の内容を聞き落とさずに聞き取ることができるよう、「聞く」心構えについて継続して意識付けを図る。 ・友達の意見を聞くときには、自分の意見との相違点をはっきりさせ、それを踏まえて自分の意見が発表できるように働きかける。
書くこと	●領域全体の平均正答率は60.6%で、県の平均より7.4ポイント下回った。 ○2段落構成で文章を書くことができた児童が6割近くいる。	・行事の後などの作文やお知らせシートなど文章を書く機会を設け、段落を意識した文が書けるように指導していく。 ・自分の意見とその理由や根拠をはっきりさせて書くことができるように日常のノート指導でも具体的に働きかける。
読むこと	●領域全体の平均正答率は67.0%で、県平均より3.4ポイント低い。説明文の内容理解では、市の平均正答率より2.3ポイント下回り、60.5%である。物語文の内容理解では、正答率は73.6%で、市の正答率を4.4ポイント下回っている。 ○説明文の文章を読んで感じたことや考えたことを共有する問題では、県の平均を5.8ポイント上回り、平均正答率が71.7%であった。	・説明文の読み取りでは、段落相互の関係に注意して内容を読み取る学習を展開し、重点的に指導していく。 ・物語文の読み取りでは、登場人物や時間の経過など教材文の叙述に着目させて場面の様子を考える学習を重点的に指導していく。 ・日常の読書活動を推進し、読書を楽しめるよう働きかける。

宇都宮市立明保小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.6	67.8	67.0
	図形	69.3	73.9	73.1
	変化と関係	55.6	61.4	60.2
	データの活用	48.4	52.7	52.1
観点	知識・技能	65.5	69.7	69.2
	思考・判断・表現	51.6	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	51.7	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

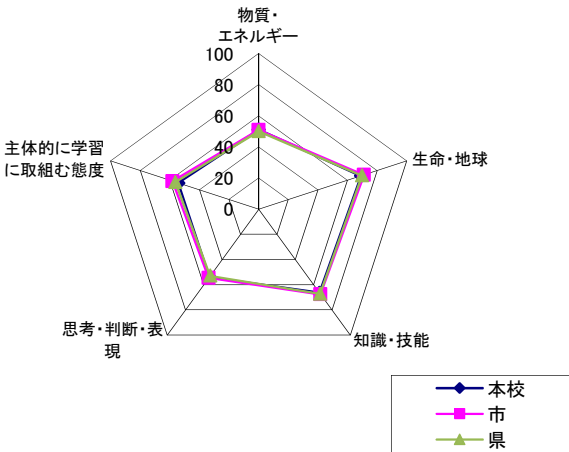
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域全体では、平均正答率が62.6%と県の平均正答率より5.2ポイント下回り、市の平均正答率より4.4ポイント下回っている。「数の表し方」の設問では、平均正答率が67.9ポイントで県の平均より0.1ポイント上回り、市の平均より0.3ポイント上回った。 ●「わり算・計算のきまり」の設問では、平均正答率が49.6%で県の平均より8.9ポイント下回り、市の平均より10.1ポイント下回った。	・朝の学習や家庭学習で基礎的な計算問題に取り組み、正確な答えを導くことができるよう継続指導していく。 ・わり算でつまづく傾向が見られるので、筆算の処理の仕方、商の表し方などを確認し、復習する。
図形	○領域全体では、平均正答率が69.3ポイントと県の平均正答率より3.8ポイント下回り、市の平均正答率より4.6ポイント下回っている。「分度器の中に示された角の大きさの目盛りを読む」設問では、平均正答率が77.2ポイントで県の平均とほぼ同じ結果であった。 ●「いろいろな形」の設問では、平均正答率が71.7ポイントで県の平均より2.4ポイント下回り、市の平均より3.7ポイント下回った。「角の大きさ」の設問では、平均正答率が70.7ポイントで県の平均より3.0ポイント下回り、市の平均より2.4ポイント下回った。	・各々の図形の特徴を、復習などを通して確認する。 ・基礎的な問題に対して継続的に取り組むとともに、応用的な問題にも取り組む。
変化と関係	○領域全体では、平均正答率が55.6%と県の平均正答率より4.6ポイント下回っている。「変わり方調べ」の設問では、平均正答率が90.2%で県の平均から2.0ポイント上回った。 ●「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」設問では、平均正答率が33.7ポイントで県の平均より3.2ポイント下回った。	・朝の学習の時間や家庭学習で、分配の法則や四則混合など基本的な計算問題に取り組ませ、正確な答えを導くことができるように反復練習を行う。 ・立式の前に数直線や図等を作成し、問題を分かりやすくしてから計算に臨むように指導していく。
データの活用	●領域全体では、平均正答率が48.4ポイントと県の平均正答率より1.7ポイント下回り、市の平均正答率より4.3ポイント下回っている ●「折れ線グラフと表」の設問では、平均正答率が48.4ポイントで県の平均より1.7ポイント下回り、市の平均より4.3ポイント下回った。	・社会科などの資料活用の場面で、グラフや表のデータ活用を意図的に行う。 ・計算スキルなどの補充問題を用い、反復練習を行うことで、活用の力の向上を図る。

宇都宮市立明保小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	51.0	50.8	50.0
	生命・地球	69.1	71.1	69.8
観点	知識・技能	66.4	67.6	67.2
	思考・判断・表現	53.9	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	54.3	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○領域全体では、51.0ポイントと市町村の平均正答率と比較して0.2ポイント上回っている。 ○「物の体積と温度」では、58.3ポイントと市町村の平均正答率と比較して4.6ポイント上回っている。体積の変わり方が大きいものを並べなおす問題がよくできている。 ○「物のあたためり方」では、54.3ポイントと市町村の平均正答率と比較して1.6ポイント上回っている。 ●「物の体積と力」では、48.6ポイントと市町村の平均正答率と比較して3.3ポイント下回っている。 ●「電気のはたらき」では、43.7ポイントと市町村の平均正答率と比較して2.0ポイント下回っている。	・デジタル教材等を効果的に用いることで、視覚的に理解を促すようにする。 ・学習した内容を定着するため、プリントやAIDリルを活用して演習問題を行っていく。
生命・地球	●領域全体では、69.1ポイントと市町村の平均正答率と比較して2.0ポイント下回っている。 ○「動物のからだのつくりと運動」では、82.6ポイントと市町村の平均正答率と比較して3.5ポイント上回っている。腕を伸ばした際に縮む筋肉と緩む筋肉を正しく選ぶことができ、骨と骨の継ぎ目の名称が関節だと解答できている。 ○「雨水のゆくえと地面のようす」では、67.9ポイントと市町村の平均正答率と比較して1.5ポイント上回っている。 ●「天気のようにと気温」では、65.2ポイントと市町村の平均正答率と比較して7.5ポイント下回っている。 ●「月と星」では、54.3ポイントと市町村の平均正答率と比較して3.8ポイント下回っている。	・観察や実験の結果を覚えるだけでなく、観察物の様子と合わせて、季節などの周囲の変化に着目し、それらを関連付けることができるよう指導していく。 ・グラフの読み取り方については、練習問題を使って復習を行っていく。二つ以上のグラフを比較して違いを読み取り、考えられることをまとめられるよう指導していく。

宇都宮市立明保小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○県平均と比較すると、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」が9.2ポイント、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」が10.3ポイント上回っている。また、「1か月に、何冊くらい本を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に「3冊以上」と回答した児童が79.3%で4.5ポイント上回っており、本を読む習慣がないという回答した児童が少ない。学習や読書への意欲が高まってきている。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」が6.2ポイント、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」が7.9ポイント、「先生は学習のことについてほめてくれる」が7.6ポイント上回り、学習、特に発言への意欲が高まっている。

○「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」が6.5ポイント、「自分の行動や発言に自信を持っている」が11.4ポイント、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」が6.7ポイント上回っており、自己肯定感が高い傾向にある。

●「家で、自分で計画を立てて勉強している」が6.2ポイント、「家で、学校の授業の予習をしている」が6.9ポイント、「家で、学校の授業の復習をしている」が9.5ポイント、「家で、テストで間違えた問題について勉強している」が6.5ポイント、県平均より下回っている。計画的に家庭学習に取り組めるよう、指導を継続していく。

●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」が12.6ポイント下回っている。主体的に学習に取り組めるよう、児童が自分の学習を振り返る時間を大切に扱っていくようにする。

●「ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDなどを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームは除く)」に「4時間以上」と回答した児童が25%で10ポイント、「ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)」に「4時間以上」と回答した児童が19.6%で6.3ポイント上回っている。今後、家庭と連携しながら、よりよいメディアとの接し方を指導していく。

宇都宮市立明保小学校(第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の確実な定着	宮っ子学カステップアップシートやドリル学習を年間通して実施している。 家庭学習強化週間の設定や家庭学習啓発資料の配付を通して、家庭との連携を図り、主体的に家庭学習に取り組めるようにしている。 少人数指導や習熟度別学習など、学習形態を工夫することで、個に応じた指導を行っている。	4・5年生ともに、前学年に配当されている漢字を正しく読み、書くことがおおむねできている。 「家で、学校の宿題をしている」に肯定的に回答した児童の割合は、4年生が96.9%、5年生が97.8%と高い。また、自ら取り組む態度に関わる「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」への肯定的回答は、4年生が61.5%、5年生が67.4%で、ともに県や市の平均よりもやや高い。
対話的で深い学びを通じた問題解決学習	授業の導入では課題を明確にし、展開ではソーシャルディスタンスの確保に留意しながらペアやグループで課題解決を行い、終末では学習の振り返りを行うことで、学習内容の定着を図っている。	「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」に肯定的に回答した児童の割合においては、4年生が82.3%、5年生が89.2%と、どちらも県や市の平均より高い。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に肯定的に回答した児童の割合は、4年生が78.2%、5年生が77.2%で、どちらも県や市の平均とほぼ同じか、高い傾向にある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問紙調査において、「家で、自分で計画を立てて勉強している」に肯定的に回答した児童の割合が、4年生は60.4%、5年生は66.3%で、ともに県や市の平均よりも5ポイント以上低い。さらに、「家で、学校の授業の予習・復習をしている」についても、県や市の平均とほぼ同じか、低い傾向にある。	家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	家庭学習に継続的に取り組むことができるよう「家庭学習の進め方」等を活用しながら、計画の立て方や内容についての指導を定期的にしていくにする。また、家庭との連携を図れるよう、啓発資料や学年だより等を活用して保護者の意識を高められるようにする。
教科に関する調査において、いくつかの情報を基に整理して書くような記述式設問における正答率が県や市の平均よりも低い傾向にある。また、質問紙では「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」という設問に肯定的に回答した児童の割合が60%弱おり、学力層の差も大きい。	条件に応じて自分の考えを書く活動の充実	様々な機会を捉えて、自分の考えを端的に記述する活動や、複数の資料から目的に合った情報を抜き出してまとめたり、メモを基に文章を書いたりする活動を取り入れていく。また、自分の考えを書く際に、字数や使用しなければならない語句の条件を段階的に増やすなどの提示の仕方を工夫し、条件に合わせ、自分の考えをまとめて記述する力を養っていくようにする。さらに、始めから完璧な解答を求めず、児童に寄り添いながら思考の過程を励ますことで自信をもたせたり、友達のよい文章を提示して参考にさせたりし、諦めずに挑戦する意欲を高めるようにする。